

会員番号

受付日

受付 No.P19-

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定＊）申請書（P1/7）

＊この申請書は日本臨床薬理学会認定薬剤師制度による認定申請書を兼ねるので、認定薬剤師試験に合格した場合には認定申請書を改めて提出する必要はありません。

日本臨床薬理学会 認定薬剤師制度委員会委員長 殿
理事長 殿

日本臨床薬理学会認定薬剤師制度による認定薬剤師試験（認定）を受けたいので、申請いたします。

(西暦) 年 月 日

ふりがな
申請者氏名 印 生年月日 (西暦) 年 月 日

氏名（ローマ字表記）：

申請者の所属施設

所属名（部局名を含む）：

英文所属名：

役 職：

所在地： 〒

TEL：

FAX：

E-mail：

卒業大学・学部： 大学 (西暦) 年 月卒業

(〇〇大学薬学部、〇〇薬科大学、など)

薬剤師免許証番号： (西暦) 年 月 日登録

連絡先（書類送付先）として所属施設と異なる住所を希望する場合には、以下に記入してください。

住所： 〒

TEL：

FAX：

()：指導薬剤師の委嘱審査を希望する場合には、○を記入してください。＊

＊指導薬剤師の委嘱条件を満たしている場合に限りです。

この欄は事務局で使用しますので、記入しないでください。

日本臨床薬理学会入会年月日： 年 月 日

受験番号： P 1 9— 合 否 (合 , 否)

認定番号： 認定期間： 2020年1月1日～2024年12月31日

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P2/7）

A. 履歴書

申請者氏名

印

*すべて西暦年月で記載してください。

学歴（大学（学部）卒業以後について記入してください）

（例） 1990年4月－1994年3月 ○○大学大学院薬学研究科博士課程前期

職歴（大学卒業または大学院修了以後の職歴について記入してください。スペース不足の場合にはA4判用紙を用いて付け加えてください）

（例） 1994年4月－1999年3月 ○○大学医学部附属病院薬剤部薬剤師

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P3/7）

B. 業績目録（1）：出席・業績のまとめ 申請者氏名 印

1) 日本臨床薬理学会学術総会および臨床薬理学講習会への出席

合計出席回数	() 回
内訳	
日本臨床薬理学会学術総会への出席回数	() 回
臨床薬理学講習会への出席回数	() 回

2) 臨床薬理学に関する学会発表

合計発表回数	() 回
内訳	
発表者	() 回
共同発表者	() 回

*3回以上の発表で、そのうち発表者1回以上を含むこと

3) 臨床薬理学に関する学術論文1編（査読制のある全国規模あるいは国際学会誌・学術雑誌）

合計発表数	() 編
内訳(参考)	
筆頭著者	() 編
共同著者	() 編

*筆頭著者として1編を含むこと

なお、指導薬剤師委嘱希望の場合は、以下の条件をすべて満たす必要があります。

- 1) 日本臨床薬理学会会員歴 5年以上
- 2) 臨床薬理学に関する学会発表（地方会、全国規模あるいは国際学会）10回以上
- 3) 臨床薬理学に関する学術論文（査読制のある全国規模あるいは国際学会誌・学術雑誌）10編以上

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P4/7）

B. 業績目録（2）：学術総会・講習会出席記録

申請者氏名

印

-
- * 1. 出席した日本臨床薬理学会学術総会および臨床薬理学講習会について、年号（西暦）の順に記載してください。
2. 出席の証明として、それぞれの会の出席証明書（出席者控え）のコピーまた参加名札（参加証明書と記載あり）のコピーを、所定の用紙（「日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）業績証明書類」貼付用紙）に貼付し、本申請書に添えて提出してください。

出席学術総会・講習会名

年 月

(例：第 38 回学術総会、第 24 回臨床薬理学講習会)

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P5/7）

B. 業績目録（3）：学会発表目録

申請者氏名

印

-
- * 1. 臨床薬理学に関する学会発表のみを、**番号・発表者名（全員）・演題名・学会名・開催年（西暦）**の順に記載してください。スペースが不足の場合には、この用紙のコピーを用いて付け加えてください。
2. 臨床薬理学に関する学会発表に該当する別刷り抄録またはそのコピーを各1部、本申請書に添えて提出してください。
-

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P6/7）

B. 業績目録（4）：発表学術論文目録

申請者氏名

印

-
- * 1. 臨床薬理学に関する学術論文、**番号・著者名（全員）・論文（著書）名・発表年（西暦）・雑誌名・巻・頁**の順に記載してください。スペースが不足の場合には、この用紙のコピーを用いて付け加えてください。
2. この用紙に記載した論文の別刷またはそのコピーを各1部、本申請書に添えて提出してください。
-

一般社団法人日本臨床薬理学会認定薬剤師試験（認定）申請書（P7/7）

C. 研修修了証明

申請者氏名

印

- * 1. 該当する項目を記入し、以下の表を完成してください。
 2. 2カ所以上の施設で研修した場合には、研修施設毎に記入・作成してください。
 3. 推薦状（臨床薬理学に関する研修を受けた指導薬剤師または指導医による推薦状1通）を、本申請書に添えて提出してください。（書式自由）

研修施設名	
研修指導者名	印
研修指導者番号	指導(医師・薬剤師)番号： 号
指導者認定期間	西暦 年 月 日 ～ 年 月 日
申請者研修期間	西暦 年 月 日 ～ 年 月 日
研修内容	<p>「臨床薬理学研修内容」の概要について、該当する項目にレ点を付けてください。（すべての項目を満たす必要は無し）</p> <p>1. 臨床薬理学の概念と定義</p> <p><input type="checkbox"/> A 臨床薬理学の基本的な考えかた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 治療における薬物の位置づけ 2 臨床薬理学の概念 3 臨床薬理学の領域 4 臨床薬理学の歴史 5 患者との信頼関係の構築：治療のパートナーシップ 6 創薬育薬医療チーム 7 日本臨床薬理学会認定制度：医師・薬剤師・CRC <p><input type="checkbox"/> B 臨床研究の科学性と倫理性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ヘルシンキ宣言など 2 Good Clinical Practice(GCP) 3 Institutional Review Board(IRB) 4 インフォームドコンセント(IC) 5 倫理指針 <p>2. 医薬品開発に関わる臨床試験</p> <p><input type="checkbox"/> A 医薬品開発と臨床試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医薬品開発における国際協調 (ICH) 2 非臨床試験 3 非臨床試験から臨床試験への移行 4 治験 5 大規模臨床試験 6 新薬開発の展望 <ol style="list-style-type: none"> a. 医薬品開発の現状と今後求められる医薬品 b. 希少疾病用医薬品 (Orphan drug)

c. 国際共同試験

7 開発業務受託機関(CRO)と治験施設支援機関(SMO)

- B 臨床試験のデザインと生物統計学
 - 1 実験計画法と生物統計学
 - 2 薬剤疫学
 - 3 CONSORT 声明

3. 臨床薬物動態学

- A 臨床薬物動態学の治療学における位置づけ
 - 1 血中薬物濃度の意義
 - a. 有効血中薬物濃度域
 - b. 用量濃度反応関係
- B 薬物代謝酵素とトランスポーター
- C 薬物動態学各論
 - 1 薬物の吸収
 - a. 薬物の吸収機構
 - b. バイオアベイラビリティ
 - c. 生物学的同等性
 - 2 薬物の分布
 - 3 薬物の代謝
 - 4 薬物の排泄
 - a. 腎排泄：尿への排泄
 - b. 胆汁への排泄
 - c. 乳汁への排泄
 - d. 唾液中の排泄
 - e. 血液透析時の透析液への移行

- D 薬物送達システム(DDS)

4. 薬物の作用と有害反応

- A 生体内活性物質と病態
- B 薬物の作用メカニズム
 - 1 薬理作用の分類
 - 2 薬物の作用機序
 - 3 薬理作用を変化させる要因
 - 4 薬物の感受性と薬理作用
- C 薬物相互作用
 - 1 薬物動態学的相互作用
 - 2 薬力学的相互作用
 - 3 薬物相互作用試験の実施
- D 薬物有害反応
- E 薬物作用の個体内変動（時間薬理学）
- F 薬理作用の個体差
 - 1 薬理遺伝学
 - 2 薬理動態・薬物作用の個体差
 - 3 薬物動態・薬理作用の人種差
- G 薬物依存・乱用

5. 薬物治療学総論

- A 薬物動態学理論の薬物投与計画への応用

- 1 臨床で用いられる薬物投与計画
- 2 薬物投与計画に必要な薬物動態値
- 3 点滴時の薬物投与計画
- 4 反復投与時の投与計画
- 5 1点の測定値の取り扱い
- 6 ベイジアン法による薬物投与計画

B 治療計画へのアドヒアランス（コンプライアンス）

- 1 アドヒアランスとコンプライアンス
- 2 アドヒアランスの評価法
- 3 アドヒアランスに影響を与える因子
- 4 アドヒアランスの改善法

C 臨床薬理学と EBM

D 妊産婦における薬物投与計画

E 新生児・小児における薬物投与計画

F 高齢者における薬物投与計画

G 腎障害時の薬物投与計画

H 肝障害時の薬物投与計画

I 心不全時の薬物投与計画

J PGx（薬理ゲノミクス）の臨床応用

6. 薬物治療学各論

A 循環器疾患治療薬

- 1 降圧薬
- 2 抗不整脈薬
- 3 虚血性心疾患治療薬

B 代謝疾患治療薬

- 1 脂質異常症治療薬
- 2 糖尿病治療薬
- 3 骨粗鬆症治療薬

C 消化器疾患治療薬

D 呼吸器疾患治療薬

E 中枢神経作用薬

- 1 抗不安薬
- 2 睡眠薬
- 3 抗うつ薬
- 4 抗精神病薬
- 5 抗てんかん薬
- 6 その他の中枢神経作用薬

F 抗炎症薬・抗リウマチ薬

G 鎮痛薬

H 抗菌薬

I 抗悪性腫瘍薬

J 免疫抑制薬

K その他の治療薬

7. 医薬品開発の法的側面

A 医薬品添付文書の活用

	<ul style="list-style-type: none"> 1 薬物治療に必要な医薬品情報 2 添付文書 <input type="checkbox"/> B 臨床試験関係者と医事紛争 <ul style="list-style-type: none"> 1 臨床試験関係者が負う責任 2 臨床試験関係者の薬害防止義務 <input type="checkbox"/> C 薬事行政 <ul style="list-style-type: none"> 1 医薬品行政 2 新医薬品の認可過程 3 医薬品の製造販売後調査と安全対策 4 医薬品の適応外使用 <input type="checkbox"/> D 臨床薬理と健康保険 <ul style="list-style-type: none"> 1 医療保障制度の構成 2 保険医療と診療・調剤報酬制度 <p>8. 実地における経験（技術の修得）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> A 臨床薬効評価の経験 <ul style="list-style-type: none"> 1 臨床試験：第1相試験 2 臨床試験：第2相試験 3 臨床試験：第3相試験 4 臨床試験：第4相試験 5 その他の臨床薬理学的試験 6 臨床試験計画の立案 7 臨床試験成績のまとめ 8 臨床試験のインフォームド・コンセント 9 IRB への参加 10 統計解析 <input type="checkbox"/> B TDMの経験 <ul style="list-style-type: none"> 1 薬物動態解析 2 TDMと薬物投与計画 <input type="checkbox"/> C 薬物治療コンサルテーション <p><その他 特記事項があればご記入ください></p>
--	---

注1) 研修指導者1名につき1枚ご使用ください。この用紙が不足する場合にはコピーをしてお使いください。